

⑥4双葉駅東地区商業施設建設工事（その1）

受賞機関 福島県双葉町

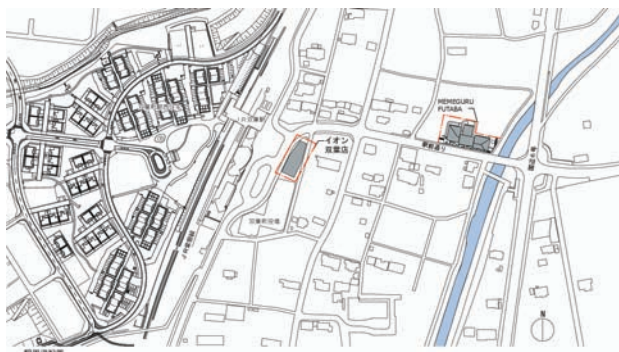
キーワード 震災後、初となるスーパーマーケット整備

全建賞審査委員会の評価ポイント

避難指示が発令された自治体の中で、町内居住の再開が最も遅れた双葉町において、民設民営が困難な状況のもと、公設民営方式により住民の生活環境の向上と帰還促進を目的とした商業施設を整備するとともに、将来のまちづくりを見据えた大屋根広場の併設等により、駅前のにぎわいを創出し、住民の集いの場を形成した点が評価された。

1. はじめに

双葉町では、東日本大震災及び原子力災害により、生活基盤が大きく損なわれ、帰還促進と地域再生に向けた拠点整備が喫緊の課題となっていた。このため、JR常磐線双葉駅東地区において、生活利便性の向上及び交流機能の創出を目的として、震災後初となる公設民営の商業施設（スーパーマーケット）を整備した。



双葉駅周辺

2. 事業の概要

本施設は、駅前立地を生かし、「日常生活サービス機能」と「交流機能」を一体的に備えた商業施設である。

建物は鉄骨造平屋建てで、延べ面積約300㎡のコンパクトな規模とし、店舗機能に加えてイートインスペースを設けることで、来店者がゆっくり滞在できるよう工夫されている。さらに、太陽光発電設備の導入や高効率設備の採用により、環境負荷低減にも配慮し、NearlyZEBの認証を取得した。

外部空間は、駅前広場との一体性を重視し、人々の滞留や多様な活動に対応するとともに、町の伝統行事である「だるま市」の来訪者を受け入れる「ひろば」をできる限り広く確保した。また、大きな屋根を架けることで、平時にも催事の際にもまちづくりの拠点となる空間として整備した。



大屋根の軒下ひろばとJR双葉駅



駅前広場の「だるま市」と施設全景

3. 事業の成果

本施設の整備により、駅周辺における生活利便性が向上するとともに、地域住民や来訪者の交流機会の創出が図られた。

また、駅利用者の滞在促進や周辺エリアへの回遊性の向上及び地域のにぎわい創出に寄与している。コンパクトな規模ながら、商業、交流及び環境配慮を同時に実現した点は、持続可能な拠点整備のモデルとして評価できる。

4. おわりに

本事業は、復興途上にある双葉町において生活基盤の再構築と地域交流の核を形成する重要な役割を担うものである。

今後は、駅周辺整備との連携により、一層のにぎわい創出が期待される。また、本施設を駅前交流拠点として、双葉駅東地区の様々な整備事業と連携させることで、地域の活性化につながることが期待される。

賛助会員 (株)建設技術研究所、(株)日総建